

# 拾ヶ堰開削の総指揮を取る—3 か月で難工事を成し遂げたリーダー

## 等々力孫一郎（とどりき まごいちろう）

穂高柏原（出身・松本市井出川）

<孫一郎が活躍した時代> 江戸時代 1761(宝暦11)年～1831(天保2)年 享年 71歳

江戸																
1761	1790頃	1799	1812		1814		1815		1816		1831					
宝暦11	寛政2	寛政11	文化9		文化11		文化12		文化13		天保2					
			8月	12月	5月				2月11日	5月11日	7月3日					
る松 。本 市 出 川 に 生 ま れ	い孫 立一 つ郎 。が 新 堰 開 削 を 思	計中 画島 を輪 始兵 め衛 るが 。拾 ヶ 堰 の	代養 父孫 に右 なる 。門 の 大 庄 屋	ち働 合右 わか衛 せか門 るの3 。具人 。屋 体で 策藩 をへ の打	下柏 右衛 堀金 庄屋 。中 島 輪 兵衛 、	製夜 わ間 れの 調査 中 に 竹 槍 で	屋高 、、 松長 本尾 に組 提大 出庄	繪、 、面 松長 尾組 積積 願大 書庄 を保	藩の 再ヶ 許び 可藩 をに 得願 るい 。出 意合 ての 、下	十ヶ 起村 とな 。屋 合 意 、下	る堰 筋に 杭打 ちが され	る案 兵衛 。六 調査 が右 衛門 始ま	工事 開始 。	工事 終了 。	完全 に通 水。	死 去。
	30歳	39歳	52歳		54歳		55歳		56歳		71歳					

## 統率力と仲間との団結で、美しい安曇野の風景の源、「命の水」となった拾ヶ堰を作った

### 水がなく苦勞した安曇野の歴史

安曇野の地形は扇状地のため、水がなく栄養も少ない土地でした。そのため、農作物や米作りに向かない土地でした。城主に納める年貢米や自分たちで食べる米すらも苦勞してきました。寝る間を惜しんで働いても、干ばつ(日照り)や冷害、大雨による川の氾濫など天災のため、食べるものも少なく、村人は大変苦しんでいました。命の水を取り合って、争いまで起きることも度々ありました。



孫一郎は、貧しく苦しんでいる人々のために、拾ヶ堰の構想を始めました。

水の乏しいこの地に稲を作りたい・・・  
そのためには何よりも水が必要だ！！



### 困難にも負けず、難工事を達成

☆莫大な費用…拾ヶ堰の工事が失敗したら工事にかかる藩からの借金をどう返済すればいいのか…みなが困っていた時、失敗した時はすべての借金を自分が引き受けると約束しました。

☆反対派の百姓…土地や水を奪われると思い込んでいた反対派の百姓たちの目を避け、夜間に行動していた孫一郎は、反対派の百姓たちに襲われ竹槍で足を突かれて、一生片足が不自由になってしまいました。それでも孫一郎は拾ヶ堰の工事を諦めませんでした。

☆難工事…低い所から高い所へ水を引いたり、梓川を始め多くの用水を横断したりするなど、厳しい条件の中、わずか3か月の工事期限内で、不可能と思われた工事を見事に完成させました。



【拾ヶ堰全図】

### 「味水百選」にも選ばれ、有数の米どころとなった安曇野

拾ヶ堰に初めて水の通った日は、みな涙を流して、どこまでもどこまでも、高い堰土手を走りました。拾ヶ堰開通により、600haの水田が生まれ、「不毛の扇状地」が日本有数の、長野県では一番の米どころになりました。

孫一郎がわずか90日で達成した大事業は、27年かけて考えた構想と、綿密な計画、また当時としては考えられない正確な測量があって成し遂げられました。かかった費用は現在のお金で約2億円、工事に関わった人数は延べ67,112人にもなります。工事は、くわで土を掘り、もっこで運ぶなどすべて人の手によるものでした。奈良井川の取水口から終点の烏川まで15km、幅は約10mの立派な堰は孫一郎の熱意と仲間との団結力で数々の困難を乗り越えて作られました。10の村を潤すようにと願いを込めて作られた拾ヶ堰はたくさんの人の手で修理を重ねて、今も安曇野の地を潤しています。

参考文献 「安曇野と拾ヶ堰」出版・安曇野 北野進 「親子で学ぶ 安曇野の拾ヶ堰 ガイドブック」 拾ヶ堰応援隊 城取和雄  
「全国伝承 江戸時代 人づくり風土記」農山漁村文化協会 組本社 「新編 のびゆく郷土」信州社会科教育研究会  
「安曇野風土記」農業土木歴史研究会 中島博昭 安曇野農業水利事業所 「社会 3・4下」平成22年検定版光村教育図書